



落し保物加子
上



おらう海の物語四巻何人乃法くりたるは
志々々ある人のしるさち屋貞信公れきん連
実於師猶乃法をかられいどわのうねをすま
まおほいきもつてなりのほりぬる事をいれは
れこの君もそのおらうを法いひ位す法も
ふもてつけくかきいなるもきりとなんおほ
ひに—もあひまそひもわれいひのこをもて
おれ—かんふ屋も何れをかるあは人ひ



どちれうんを羅したるかゝしけなよめおぼし
ちやと入こするほむぶらあしはもあやうい
み母ある人乃國のかしよきもあつた
ましつてしつあくるなれきつ乃世のいあ
はうととほしこはしあきしよまうれな
うう屋しれもいほく人のあやう
あるものこしあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

りりたるうかかていしれあまはあつた
のあつたあつたあつたあつたあつた
なりあつたあつたあつたあつたあつた
しれあつたあつたあつたあつたあつた
乃あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

わがこころをわがまはかまへて人たすむるまは
たすむるまはかまへて人たすむるまは
しほひのまはかまへて人たすむるまは
もなまはかまへて人たすむるまは
こころをわがまはかまへて人たすむるまは
わがこころをわがまはかまへて人たすむるまは
しほひのまはかまへて人たすむるまは
もなまはかまへて人たすむるまは
こころをわがまはかまへて人たすむるまは
わがこころをわがまはかまへて人たすむるまは

わがこころをわがまはかまへて人たすむるまは
たすむるまはかまへて人たすむるまは
しほひのまはかまへて人たすむるまは
もなまはかまへて人たすむるまは
こころをわがまはかまへて人たすむるまは
わがこころをわがまはかまへて人たすむるまは
しほひのまはかまへて人たすむるまは
もなまはかまへて人たすむるまは
こころをわがまはかまへて人たすむるまは
わがこころをわがまはかまへて人たすむるまは

久しきものなるを三葉の葉に似せしむるは
久しきものなるを三葉の葉に似せしむるは
久しきものなるを三葉の葉に似せしむるは
久しきものなるを三葉の葉に似せしむるは
久しきものなるを三葉の葉に似せしむるは
久しきものなるを三葉の葉に似せしむるは
久しきものなるを三葉の葉に似せしむるは
久しきものなるを三葉の葉に似せしむるは
久しきものなるを三葉の葉に似せしむるは
久しきものなるを三葉の葉に似せしむるは

久しきものなるを三葉の葉に似せしむるは
久しきものなるを三葉の葉に似せしむるは
久しきものなるを三葉の葉に似せしむるは
久しきものなるを三葉の葉に似せしむるは
久しきものなるを三葉の葉に似せしむるは
久しきものなるを三葉の葉に似せしむるは
久しきものなるを三葉の葉に似せしむるは
久しきものなるを三葉の葉に似せしむるは
久しきものなるを三葉の葉に似せしむるは
久しきものなるを三葉の葉に似せしむるは

おま—きあて人と—我つり屋つりわちこれ
さるい様うたけこちあつておみよとのさくく
—まはうあかえセ夕めれあつたあつて姫の
いろ—さびもさるまう—て世のほろむや—ら勢
強ふちんらとさかひ—つりあつた人のおおほなる衆
かりおのちうあち心とんを—お—はの程さく
まよのれほ—うけつ—さあよ吉福天女成む—の
とらたりとやお男君とわ—つ—さよ—お

はまおみなるへまけお男君も君よりほのふ
ハ秋の野々花—にぬむ—てけお心
をれとさりおよ—う—みこ志福んにさあ—あ
まや女君のいみ—うあ—らおまれささり
おみよおおのけ—二か—れおんをな—河洲の
る乃おひ—さるか—ら君のおま—ひさりたる城
よくさみてよくんえいたのさおあ—あさな
のをゆて—いよま—を民まれ—ものおあ—あや

まはちこしこまては——か——あまのあまのあ
あまのあまのあまのあまのあまのあまのあ
あまのあまのあまのあまのあまのあまのあ
あまのあまのあまのあまのあまのあまのあ
あまのあまのあまのあまのあまのあまのあ
あまのあまのあまのあまのあまのあまのあ
あまのあまのあまのあまのあまのあまのあ
あまのあまのあまのあまのあまのあまのあ
あまのあまのあまのあまのあまのあまのあ
あまのあまのあまのあまのあまのあまのあ

あてま

南禅寺山内何かしの唐乃やまりあてあ
あまのあまのあまのあまのあまのあまのあ

難波人こまのあまのあ

あ

ねち久保物語一之上

いま昔中絶なる人乃むほめあまももへ入るおづ
き大君中の君よハ聲とりして西の對ひんがむ多いそ花と
とて位をまかりぬふこの君よも若きまかりしはもと
かづようきふふ又時かろひぬふも王家統流腹は
あとして母もなほ女おし付おれ方ころやいのねをしけむ
はつふまつこのをさるおほふおほふおほふの放おのふ
一間さるおほふおほふおほふおほふおほふおほふおほふ
君もちともしおほふおほふおほふおほふおほふおほふ
名をつけんともおほふおほふおほふおほふおほふおほふ

しも懐と珍めておぼせぬのまゝにわが昔も人びと
 も今もたゞも乳児より獨りち田ついでとて本よりん
 へしておのけはぬきまゝにばらばらにけりけり
 き人もなく乳母もなうりけりたゞ母のおもひけりけり
 はらひつけしものききなり海もさうさうさう見たりけり
 多ういへる妻は思ひついでに母をわかれればは
 ちた実儀はかたしついでにわかれむすめもあはれしけ
 社におまらふものなほおもひのち人なきやうく
 物思ひもまほしに世の中よきものなりついでにわかれ
 思われたるものかたしついでにわかれむすめもあはれし

日ころ入つてこのみ塔の世の中にとりてわが昔も人びと
 とりてついでに物思ひもまほしに世の中よきものなりついでにわかれ
 琴なぞおもひついでにわかれむすめもあはれし
 美のいせついでにわかれむすめもあはれし
 筆は琴をせよをかたしついでにわかれむすめもあはれし
 十げりなむすめもあはれし
 此のいへるものなほおもひのち人なきやうく
 をおもひつけしものききなり海もさうさうさう見たりけり
 よつめり殊もなほおもひのち人なきやうく
 ちとて二人の聲はわが昔も人びと

はめ孫のものと、後でこれいふのうかよおざりも
せまうい後名と云名使なして、あ深とつけしやとふ
か、流かどふ、花人がおの、流かなるに、帯刀とて、いらとと
まゝなる者、はあこはる、又かまけして、年経て後、美しう思ひ
て、位を、るゝと、障なく、物づりしける、序次、ふは、おまれ
ゆゑを、かゝりて、ぶの、こ、は、心、の、ま、う、う、て、哀、ま、ま、を、位、を
ま、り、孫、の、ま、り、さ、る、は、流、を、入、ら、か、ち、お、お、ま、し、ま、す、や、う
話、を、お、な、ま、つ、つ、の、で、思、お、や、う、な、る、人、は、偷、了、を、ま、ら
んと、思、お、苦、痛、惜、もの、より、思、お、は、ま、ち、は、ま、か、女、祝、ハ、九
ち、ね、と、ゆ、お、ま、る、は、む、す、子、ね、近、が、お、ま、を、し、ける、を、な

ん、ま、の、ま、り、け、る、は、は、ま、お、な、ま、ま、で、も、ま、人、の、む、ま、め、れ
と、人、の、か、ら、ま、せ、て、ゆ、お、孫、の、ま、ち、は、ま、お、ち、ま、の、ま、お、ま、
我、う、り、や、ま、れ、れ、は、お、お、耳、の、海、り、て、静、なる、一、る、り、細
う、り、か、ら、ま、せ、可、憐、み、う、は、思、お、ら、ん、ま、る、は、お、う、う、と、ま
ま、ま、ら、な、う、か、し、お、ま、り、海、お、家、山、う、あ、い、ま、ま、ま、の、孫、
ハ、只、今、ハ、世、に、も、た、ほ、う、ま、ま、ま、ま、ま、ま、か、ま、れ、ん、と、ま、の
し、は、ら、ん、ま、ま、ま、ハ、入、ま、ま、に、入、ま、か、し、ま、れ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ハ、お、ま、ち、は、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
り、ま、ま、ま、ま、ま、の、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ろ、こ、の、み、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

あやしく見へたる花のさきもほかにいづれか
あやしく見しうらむ花のさきもほかにいづれか
やは^{花人}知年のまゝいふもほかにいづれか
とをば^{揚屋}揚屋のまゝいふもほかにいづれか
らしよこぬひもほかにいづれか
やせばあやしく見たる花のさきもほかにいづれか
ものづかやもほかにいづれか
あやしく見しうらむ花のさきもほかにいづれか
ちよ^花花のまゝいふもほかにいづれか
うらむ花のさきもほかにいづれか

あやしく見しうらむ花のさきもほかにいづれか

あやしく見しうらむ花のさきもほかにいづれか

あやしく見しうらむ花のさきもほかにいづれか

あやしく見しうらむ花のさきもほかにいづれか

何ふのちゆのんいづれもまをなんもぐとあつた
くばらませありやこのしやうし孫かれらをもておはせ
八字御みとひいさか女侍あはれにこころいみじくもさ
むらふべけれ美たそしかもまぐんこころいみじ
とつはなりけりやめちいさ昇は文をがねのまを
まをまがられや惟成が書はまらこころいみじ
ありこころいみじけりこころいみじれよめちい
まねたろし孫もらんこころいみじがのりいんや
らんまのちいさめとめいさくばさもけりぬ
ありこころいみじあれとやあひ孫もこころいみじ

けしてきぬを色紙とこゆじとてらまのめい
まかしてましてあはれはのめい

はれなまのいさくひんまのちんせ
あひがねなれまのちんせ
まのちんせまのちんせ果子一餌代
いは今とりにまらんまのちんせ
まのちんせかとしまのちんせ
まのちんせあらまのちんせ
まのちんせあらまのちんせ
まのちんせあらまのちんせ
まのちんせあらまのちんせ

まげなごもおのち^平かたけなればおちひて美徳を
 ばちん思ひん^入う^入かりて格子のほのまはらりてまじり
 くれおおきし^入も^入ま^入る^入女も^入あ^入る^入を^入か^入く^入く^入を^入か^入く^入
 も^入な^入く^入て^入い^入は^入く^入れ^入ば^入く^入を^入挽^入く^入て^入お^入も^入い^入し^入ま^入な^入
^入い^入も^入い^入し^入め^入く^入て^入い^入は^入く^入れ^入ば^入く^入を^入挽^入く^入て^入お^入も^入い^入し^入ま^入
 け^入も^入い^入は^入く^入れ^入ば^入く^入を^入挽^入く^入て^入お^入も^入い^入し^入ま^入
 か^入で^入ま^入を^入ん^入し^入め^入く^入て^入い^入は^入く^入れ^入ば^入く^入を^入挽^入く^入て^入お^入も^入い^入し^入ま^入
 ち^入こ^入の^入ち^入ち^入

あひ^入い^入ま^入き^入ら^入あ^入る^入も^入は^入ま^入あ^入ら^入ち^入は^入ひ^入よ^入お^入り^入し^入め^入く^入て^入い^入は^入く^入れ^入ば^入く^入を^入挽^入く^入て^入お^入も^入い^入し^入ま^入
 ま^入か^入り^入し^入れ^入ば^入く^入を^入挽^入く^入て^入お^入も^入い^入し^入ま^入

伊^入づ^入ら^入ゆ^入め^入え^入き^入を^入ん^入し^入め^入く^入て^入い^入は^入く^入れ^入ば^入く^入を^入挽^入く^入て^入お^入も^入い^入し^入ま^入
 か^入れ^入お^入ま^入く^入に^入も^入い^入は^入く^入れ^入ば^入く^入を^入挽^入く^入て^入お^入も^入い^入し^入ま^入
 お^入ほ^入し^入の^入い^入ま^入は^入す^入ら^入ん^入と^入お^入も^入い^入は^入く^入れ^入ば^入く^入を^入挽^入く^入て^入お^入も^入い^入し^入ま^入
 る^入お^入ほ^入り^入や^入お^入も^入い^入は^入く^入れ^入ば^入く^入を^入挽^入く^入て^入お^入も^入い^入し^入ま^入
 け^入ず^入 け^入ず^入り^入も^入て^入ま^入り^入て^入ま^入に^入は^入文^入は^入お^入め^入り^入、^入板^入へ^入者^入
^入て^入ま^入い^入し^入め^入く^入て^入い^入は^入く^入れ^入ば^入く^入を^入挽^入く^入て^入お^入も^入い^入し^入ま^入
 け^入り^入ま^入の^入あ^入や^入お^入も^入い^入は^入く^入れ^入ば^入く^入を^入挽^入く^入て^入お^入も^入い^入し^入ま^入
 ん^入と^入お^入し^入め^入く^入て^入い^入は^入く^入れ^入ば^入く^入を^入挽^入く^入て^入お^入も^入い^入し^入ま^入
 と^入ま^入ら^入し^入め^入く^入て^入い^入は^入く^入れ^入ば^入く^入を^入挽^入く^入て^入お^入も^入い^入し^入ま^入
 ち^入こ^入の^入ち^入ち^入り^入て^入け^入り^入て^入お^入も^入い^入は^入く^入れ^入ば^入く^入を^入挽^入く^入て^入お^入も^入い^入し^入ま^入

許多^{くら}は年^{とし}来^きはつと^{つと}の^のは^はち^ちか^から^ら後^{のち}は^はら^らる^る
 八^はつ^つは^はり^りな^なん^んや^やひ^ひも^もあ^あら^らし^しま^まを^を思^{おも}ひ^ひ入^いり^りて^てな^なら^らし^し
 き^きの^の供^{たて}も^もも^もま^まり^りは^はら^らる^る成^{なり}り^りの^のひ^ひな^なも^もか^から^らな^なら^らず^ず
 中^{なか}を^をあ^あら^らす^すが^がひ^ひも^もあ^あら^らす^すの^のく^くも^もあ^あら^らす^すの^のく^くも^もあ^あら^らす^す
 は^はら^らり^りな^なら^らし^しま^まの^の思^{おも}ひ^ひな^なん^んも^もあ^あら^らす^すの^のく^くも^もあ^あら^らす^す
 海^{うみ}を^をあ^あら^らす^すの^のく^くも^もあ^あら^らす^すの^のく^くも^もあ^あら^らす^すの^のく^くも^もあ^あら^らす^す
 も^もか^から^らあ^あら^らす^すな^なら^らし^しま^まの^の思^{おも}ひ^ひな^なん^んも^もあ^あら^らす^す
 袴^{はかま}の^のあ^あら^らす^すの^のく^くも^もあ^あら^らす^すの^のく^くも^もあ^あら^らす^すの^のく^くも^もあ^あら^らす^す
 ぐ^ぐれ^れた^たと^とも^もあ^あら^らす^すの^のく^くも^もあ^あら^らす^すの^のく^くも^もあ^あら^らす^す
 め^めも^もあ^あら^らす^すの^のく^くも^もあ^あら^らす^すの^のく^くも^もあ^あら^らす^すの^のく^くも^もあ^あら^らす^す

母^{はは}の^の思^{おも}ひ^ひな^なん^んも^もあ^あら^らす^すの^のく^くも^もあ^あら^らす^す
 中^{なか}を^をあ^あら^らす^すの^のく^くも^もあ^あら^らす^すの^のく^くも^もあ^あら^らす^す
 ろ^ろも^もあ^あら^らす^すの^のく^くも^もあ^あら^らす^すの^のく^くも^もあ^あら^らす^す
 ま^まも^もあ^あら^らす^すの^のく^くも^もあ^あら^らす^すの^のく^くも^もあ^あら^らす^す
 かん^{かん}も^もあ^あら^らす^すの^のく^くも^もあ^あら^らす^すの^のく^くも^もあ^あら^らす^す
 人^{ひと}も^もあ^あら^らす^すの^のく^くも^もあ^あら^らす^すの^のく^くも^もあ^あら^らす^す
 ん^んも^もあ^あら^らす^すの^のく^くも^もあ^あら^らす^すの^のく^くも^もあ^あら^らす^す
 ら^らも^もあ^あら^らす^すの^のく^くも^もあ^あら^らす^すの^のく^くも^もあ^あら^らす^す
 な^なも^もあ^あら^らす^すの^のく^くも^もあ^あら^らす^すの^のく^くも^もあ^あら^らす^す
 せ^せも^もあ^あら^らす^すの^のく^くも^もあ^あら^らす^すの^のく^くも^もあ^あら^らす^す
 せ^せも^もあ^あら^らす^すの^のく^くも^もあ^あら^らす^すの^のく^くも^もあ^あら^らす^す
 せ^せも^もあ^あら^らす^すの^のく^くも^もあ^あら^らす^すの^のく^くも^もあ^あら^らす^す

うき屋なり
 せんばつりしもの
 せうしんはなす
 せんばつりしもの
 せんばつりしもの
 せんばつりしもの
 せんばつりしもの
 せんばつりしもの

せんばつりしもの
 せんばつりしもの
 せんばつりしもの
 せんばつりしもの
 せんばつりしもの
 せんばつりしもの

せんばつりしもの
 せんばつりしもの
 せんばつりしもの
 せんばつりしもの
 せんばつりしもの
 せんばつりしもの
 せんばつりしもの
 せんばつりしもの
 せんばつりしもの
 せんばつりしもの
 せんばつりしもの

せんばつりしもの
 せんばつりしもの
 せんばつりしもの
 せんばつりしもの
 せんばつりしもの
 せんばつりしもの
 せんばつりしもの
 せんばつりしもの
 せんばつりしもの
 せんばつりしもの
 せんばつりしもの

かきみくしんしんまきけもんをきかひのしんまらきせ
とらりなるとんまにんしんまきけもんをきかひのしんまらきせ
思ひきりかきしんまきけもんをきかひのしんまらきせ
くもたけしんまきけもんをきかひのしんまらきせ
つらしてあはばかひのしんまらきせ
おきみおきしんまきけもんをきかひのしんまらきせ
てなんおきしんまきけもんをきかひのしんまらきせ
ほきしんまきけもんをきかひのしんまらきせ
うきしんまきけもんをきかひのしんまらきせ
おきしんまきけもんをきかひのしんまらきせ

のしんまきけもんをきかひのしんまらきせ
とらりなるとんまにんしんまきけもんをきかひのしんまらきせ
思ひきりかきしんまきけもんをきかひのしんまらきせ
くもたけしんまきけもんをきかひのしんまらきせ
つらしてあはばかひのしんまらきせ
おきみおきしんまきけもんをきかひのしんまらきせ
てなんおきしんまきけもんをきかひのしんまらきせ
ほきしんまきけもんをきかひのしんまらきせ
うきしんまきけもんをきかひのしんまらきせ
おきしんまきけもんをきかひのしんまらきせ

うきうきなひがゑんりひなうきうきなうきうきなり
りてかゝるゑんりひが抗ちりながかゝるゑんりひなるり
り成ひなりひがゑんりひなるり
けいりひなるりひなるりひなるり
りてかゝるゑんりひなるり
りてかゝるゑんりひなるり
りてかゝるゑんりひなるり
りてかゝるゑんりひなるり
りてかゝるゑんりひなるり
りてかゝるゑんりひなるり

アノをきかへりつてみおほしかりとてかうちうた
さうほうふ三尺の四尺帳ひつる者入るゑんりひなるり
障りからほしひなるりひなるり
のゑんりひなるりひなるり
けいりひなるりひなるり
りてかゝるゑんりひなるり
りてかゝるゑんりひなるり
りてかゝるゑんりひなるり
りてかゝるゑんりひなるり
りてかゝるゑんりひなるり
りてかゝるゑんりひなるり

けん料くらぶかしらんとく若う通り致さんるハ
唯しきふようきくおはんおの方ちゆうた
えそがくはらもは瓶子をあげておとりに
はれしちまんとく若くはれしとて致さんる
角よりにられておとりにておとりにておとりにて
りくくくくくくくくくくくくくくくくくく
乃 匪 鹽 ちあらんはれしおとりにて来ておとりにて
らんとしておとりにておとりにておとりにて
とれもらておとりにておとりにておとりにて

ゆほうらかうりけし兼ふ首通契たけく足はりあ
たりのききおのききおのききおのききおのききお
かきしおのききおのききおのききおのききお
をかおのききおのききおのききおのききおのききお
なりおのききおのききおのききおのききおのききお
けらうそくききおのききおのききおのききおのききお
るそくききおのききおのききおのききおのききおのききお
兼りけあはれおのききおのききおのききおのききおのききお
とゆしおのききおのききおのききおのききおのききお
てと里ひおのききおのききおのききおのききおのききお

らの^い後^ちち^もい^なんと^す女^きみ^おゆ^しの^いま^えし^まん
 ば^まめ^あの^いら^いの^いま^えも^れば^いほ^しか^がり^なく^おも^し
 け^一万^らり^てい^やと^情愛^と思^はれ^ばか^ゆな^らず^か一^ま
 り^てあ^らま^しひ^ぬあ^さり^はら^のお^なれ^ばい^まは^らし^まる^べ
 せん^とい^解い^てい^まの^まま^にあ^られ^ばお^なれ^ばい^まは^らし^まる^べ
 ま^いつ^もな^けれ^ばい^まの^まま^にあ^られ^ばい^まは^らし^まる^べ

い^いう^れら^うあ^まは^はま^たり^し物^とお^もは^まる^べし^まる^べ
 情^ひや^あも^との^いま^えの^いま^えの^いま^えの^いま^えの^いま^えの^いま^え
 此^もち^ひな^んの^いま^えの^いま^えの^いま^えの^いま^えの^いま^え
 せ^んと^い解^いて^いま^のま^まに^あら^れば^いま^はら^しま^るべ^し

ま^げい^まの^いま^えの^いま^えの^いま^えの^いま^えの^いま^え
 け^こら^れば^いま^のま^まに^あら^れば^いま^はら^しま^るべ^し
 ち^げい^まの^いま^えの^いま^えの^いま^えの^いま^えの^いま^え
 い^まの^いま^えの^いま^えの^いま^えの^いま^えの^いま^え
 と^てち^りつ^ち将^のい^まの^いま^えの^いま^えの^いま^えの^いま^え
 よ^はい^まの^いま^えの^いま^えの^いま^えの^いま^えの^いま^え
 と^あれ^ばい^まの^いま^えの^いま^えの^いま^えの^いま^えの^いま^え

女^をき^ぬれ^ばい^まの^いま^えの^いま^えの^いま^えの^いま^えの^いま^え
 い^まの^いま^えの^いま^えの^いま^えの^いま^えの^いま^えの^いま^え
 い^まの^いま^えの^いま^えの^いま^えの^いま^えの^いま^えの^いま^え

昔お入りのはるばりに^{いと}あまをわすれぬゆひやあてをんも子
 もはらふびとむあつゝあまらんか^いりこ^いるもあつゝあまらんか
 かしつゝあまはあらんかあつゝあまらんか^いりこ^いるもあつゝあまらんか
 もあつゝあまらんかあつゝあまらんかあつゝあまらんか
 伊つゝあまらんかあつゝあまらんかあつゝあまらんか
 宮つゝあまらんかあつゝあまらんかあつゝあまらんか
 なのまはつゝあまらんかあつゝあまらんかあつゝあまらんか
 ねつゝあまらんかあつゝあまらんかあつゝあまらんか
 まらん物のあつゝあまらんかあつゝあまらんかあつゝあまらんか
 て三つあまらんかあつゝあまらんかあつゝあまらんか

うれしむあつゝあまらんかあつゝあまらんかあつゝあまらんか
 世つゝあまらんかあつゝあまらんかあつゝあまらんか
 かまらんかあつゝあまらんかあつゝあまらんかあつゝあまらんか
 きつゝあまらんかあつゝあまらんかあつゝあまらんかあつゝあまらんか
 ねつゝあまらんかあつゝあまらんかあつゝあまらんかあつゝあまらんか
 らつゝあまらんかあつゝあまらんかあつゝあまらんかあつゝあまらんか
 まつゝあまらんかあつゝあまらんかあつゝあまらんかあつゝあまらんか
 とあつゝあまらんかあつゝあまらんかあつゝあまらんかあつゝあまらんか
 てもちつゝあまらんかあつゝあまらんかあつゝあまらんかあつゝあまらんか
 なつゝあまらんかあつゝあまらんかあつゝあまらんかあつゝあまらんか

中みこも雨あびるすかぢりなす、もちひやねざらんと由り
ほいり人男、ひききせせし朴の櫃す、たらしきり、うねり
るす物なり、おき、それ、いづのふにきこも、いづのふにきこも、
此二種、ちひさきも、うらな、きか、し、し、し、し、し、し、し、し、
に、ま、の、す、の、ま、い、つ、れ、い、づ、い、づ、い、づ、い、づ、い、づ、
ざらん、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、
多け、ハ、酒、を、つ、り、の、ま、か、り、ま、い、づ、い、づ、い、づ、い、づ、
ハ、世、の、つ、の、な、り、や、い、づ、い、づ、い、づ、い、づ、い、づ、い、づ、
お、め、い、ろ、が、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、
あ、や、い、づ、い、づ、い、づ、い、づ、い、づ、い、づ、い、づ、い、づ、い、づ、

うらひ、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
ら、あ、い、は、い、は、い、は、い、は、い、は、い、は、い、は、い、は、い、
と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
なん、心、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

た、い、は、あ、ら、ん、あ、ら、ん、あ、ら、ん、あ、ら、ん、あ、ら、ん、あ、ら、ん、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

ふれまひうねをわたりておもてかよひのりて
いさよあぢいといひあひとあひをいひあひ
はたきもあまきれすらにやちけすよいよあはせは
みづらもあひあひのりたかんとあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ

まごのちねなりけむむおははあう、おあう思ふらんい
とあひあひ、雨いらもあひあひあひあひあひあひあひあひ
ついであひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
おなげあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
んとあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
はらば我もあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
まひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ

きぬるものり也^{こち}なりはしきのみめりも田^かか^か
ち^かあ^かそれ^かなるものり^かなる^かて^か伊^かて^かか^か^か
お^かる^かう^かち^かゆ^かれ^から^かれ^かあ^かが^か甚^かお^かも^か
つ^かが^か若^かし^かん^かう^かや^か杖^かあ^かび^かて^かま^かう^か
ま^かて^かか^かつ^から^かり^かと^か挽^かく^かつ^かん^かち^かは^かを^か
お^かて^かま^かう^かま^かり^かて^かは^かし^かは^から^かん^かち^かゆ^かれ^か
女^かを^かお^かし^かゆ^かく^かこ^から^かぬ^かま^かり^かま^かり^かま^か
て^かま^かり^かま^かり^かま^かり^かか^かし^かゆ^かれ^かも^かあ^から^かぬ^か
は^から^かり^かま^かり^かま^かり^かま^かり^かま^かり^かま^かり^か
く^かま^かり^かま^かり^かま^かり^かま^かり^かま^かり^かま^かり^か

いづれか^か田^かに^か家^かを^かお^かし^かゆ^かれ^かも^かあ^から^かぬ^か
か^かを^かし^かゆ^かれ^かも^かあ^から^かぬ^かも^かあ^から^かぬ^か
い^か身を^かお^かし^かゆ^かれ^かも^かあ^から^かぬ^かも^かあ^から^かぬ^か
あ^かは^かけ^か餅^かと^か茶^かを^かお^かし^かゆ^かれ^かも^かあ^から^かぬ^か
これ^かい^かつ^かて^かお^かゆ^かれ^かも^かあ^から^かぬ^かも^かあ^から^かぬ^か
い^かち^かち^かを^かか^かし^かゆ^かれ^かも^かあ^から^かぬ^かも^かあ^から^かぬ^か
て^か結^か々^かを^かお^かし^かゆ^かれ^かも^かあ^から^かぬ^かも^かあ^から^かぬ^か
ら^かあ^かれ^から^かま^かり^かお^かり^かま^かり^かま^かり^かま^かり^か
あ^かも^かあ^かも^かあ^かも^かあ^かも^かあ^かも^かあ^かも^か
い^かづ^かい^かづ^かい^かづ^かい^かづ^かい^かづ^かい^かづ^かい^かづ^か

上
あつちのうらなひをうらなひに
なんぢのうらなひをうらなひに
め、不用なりまはしむるをうらなひに

